

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/ユニット1)

事業所番号	2770108583		
法人名	医療法人一隅会		
事業所名	医療法人一隅会 グループホーム美原		
所在地	大阪府堺市美原区太井91番		
自己評価作成日	令和4年2月25日	評価結果市町村受理日	令和4年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の運営理念「尊重・安心・満足」を遂行する上でグループホーム＝自宅という事を念頭に置き、その人らしい生活ができるように、入居者本人の出来ることを減らさないように支援しています。又、一昨年よりコロナ感染拡大により、社会生活環境が変化し、緊急事態宣言以降面会を自粛しているため利用者さんの状況は毎月の会報にて家族さんへお知らせしています。同時に行動範囲が制約されているので、施設内レクリエーションの充実を図ると共に施設内の空地にてプランタンを設置し、トマト・きゅうり・キーウイ等を作り、入居者の皆さんと収穫を楽しみました。加えて、医療法人がゆえに急変時等にも病院と連携をとり、24時間の対応が可能としているため利用者、家族にも安心していただいている(職員も安心)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年12月に開設。幹線道路から一筋入った位置に施設があり、静かな田園風景の中で鳥たちが行き交う自然豊かな環境の中にある。法人理念「尊重・安心・満足」に加え職員同士が毎年、地域密着型サービスに相応しい目標を考えている。今年の目標は「笑顔で100%一人一人コミュニケーションを行ない出来る事を見つける」掲げ共有している。居室・リビングは明るく整理整頓され最新のエアコンを設置し空調設備が整い、居室カーテンも遮光カーテンに取替、住み心地の良い環境づくりをしている。現在コロナ禍で外出が難しいが終息後は地域のボランティア活動の受入れや近隣の神社やお寺、ツツジやバラ園への外出の機会を楽しみにしている。利用者、スタッフみんなで明るく笑いながら毎日の生活を送りたいと願っている施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊重・安心・満足」 その人らしい生活が行えるように取り組んでいる。	法人の三つの理念を掲げ、尊重は利用者の気持ちの確認、安心は家族がいなくても安心して生活ができる、満足は終の棲家としての満足を掲げ、管理者と職員は常に理念を共有して利用者と家族が安心して暮らせる事を心掛けている。毎年、職員同士が考えた目標も掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当初は近隣施設の行事等への参画を予定していたが、コロナ感染拡大による社会(生活)環境の変化により地域との交流は自粛中、但し、別の形で交流は行っている(文書通信・寄付等にて)	コロナ禍のため、地域との交流を深めることは難しく施設内での夏祭りや感染対策をしながらコスモス畑や桜見物など車窓から眺める外出支援になった。民生委員から果物やお菓子の差し入れがあり地域との交流を深め、今後は近隣の神社の夏祭り参加や花火大会に出席し地域とのつながりを大事にしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの関係でこの期間中断している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記と同様、会議は自粛するものの施設関係者による会議にてその内容(議事録)を運営推進会議のメンバーに送っている。	コロナ禍のために書面開催になり、行事報告や行事予定・空き室状況・コロナワクチン接種の報告などの議事録を、家族と運営推進会議メンバーに送付している。5月から今までどおり運営推進会議メンバー参加で会議を予定している。	書面開催でしているが、ヒヤリハットの記載がない。原因や対策などの報告を取り上げ、職員の研修や勉強会の内容など職員の取り組み方をメンバーにも伝えてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困りごとがあれば敏速に各課へ「報連相」を行い大事に至らないよう取り組んでいる。	介護保険課は申請書類のやり取りで、生活援護課は生活保護者の生活状況や医療券発行などの手続きをしたり日頃から連絡を密にしている。地域包括主催のグループホーム連絡会があり、居室の空き状況やコロナのPCR検査のことなどライン通話や電話で共有して協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	幹線道路が近く、田んぼの一角に施設があり、水路もある為 安全面を担保する為玄関の解放は危険と考え、ご家族にはご理解を頂いている。	身体拘束等の適正化のための指針を整備しており、毎月のスタッフ会議と一緒に研修をしレポートを提出で振り返り理解をしているか確認している。「行かんとして」「じっとして」などスピーチロックがあった時にはその都度管理者が注意している。転倒防止のためセンサーを使用している利用者には家族の同意のを得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で新たに「虐待」についての資料を作成し、これを基に自己啓発に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに「認知症キャラバンメイト」の勉強会を終えた経験を基に、職員へ制度の説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は記載の箇所を順番に説明を行い、疑問に思われるところは再度(理解いただけるまで)説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族代表の方にはコロナ渦中の為、通信又は電話等により意見を聞かせて頂き反映している。	利用者からは普段の会話の中で、家族からはライン通話のやり取りや電話で意見や要望を聞き出すように心掛けている。外出の要望には応えられず施設の敷地内を散歩したり暖かい日はテラスでお茶を飲んだり日光浴や外気浴を楽しんで代替えている。長年お風呂に入れていないという家族からの要望で最新式の浴槽を設置して入れるようになり家族に喜ばれている例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例職員会議でボトムUP(意見と提案)を受け、出来るだけ反映出来るように代表者に報告を行い反映している。	毎月の定例職員会議を共有している。オムツ調査の議題では利用者にとって、使い方や違和感を感じさせないような方法を申し送りノートに色々な意見をだしてもらい職員の意見として反映している。物品係、行事委員、レクレーション担当を決めてそれぞれの意見を出し合い運営へ導いている。印刷物を両面コピーできるものは両面にと提案し反映している。	理念の「利用者、家族が終の棲家を満足する」を目指して、職員に資格取得や研修に参加を促しスキルアップを図り、家族に安心してもらえる体制を整えることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算手当額を毎月固定額にし、且つ、その額をUP。又、資格取得への支援金として一部補助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体会議の中で身近な問題点などを教材として研修を行っている。内容によっては当施設独自の資料を作成し実践している。加えてOJTを通じ実施。外部研修への参加も推進しているがコロナの関係で鈍化。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大に付き、お互いの施設で中断している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と家族が安心できるよう配慮し、入所に至るまで書面だけの判断ではなく、面会・面談を重ねている。入所前には職員へ職員へアセスメントを伝達するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族の不安をできるだけ酌み安心いただけるよう情報交換を交わしている。又、不安を除く目的で希望者には体験入所を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には十分に利用者と家族のアセスメントを行いケアプランのニーズに取り入れ、グループホームのケアが本人に適切か見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の「できること」を継続的に行えるように職員間での情報を共有して、本人のライフスタイルを支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には家族へ協力要請し、家族との時間を有意義に過ごしていただくため、通常は住み慣れたところ(居室)で面会をしていただいている。現在はコロナ渦中にて中断している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や馴染みについては、事前に聞き取りを行い、できるだけ自宅にいた時の生活に近いように支援している。	家族の協力を得て事前に聞き取りを行い、家でもやっていた大人の塗り絵を楽しむ、毎日の習慣で新聞を購読する、ヘルストロンを毎日の日課として元気な体を維持している等、利用者など自宅にいた時の生活に近い日常を提供できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が仲良く出来るように配慮しながら職員が仲裁し孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の多くは、医療関係への長期生活やご逝去によるもので、ご家族から問い合わせ、相談等があれば、これまで通り情報提供、相談を受け支援が出来るように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者様の話に傾聴するように努めている。意思表示の困難な方には意思表示が可能な時に収集し、出来るだけ実現できるように支援している。	毎日の生活の中で利用者のお話を聞きながら職員同士が申し送りノートを共有している。がん患者の治療法についても本人と家族の意見の違いには、良い方法を見つけるために本人本位をもっと相談に加わり介護支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集に加え、入居後も利用者様、家族さんとの会話から情報をえるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に合わせるのではなく、申し送りの内容等(職員間の共有)を加味し利用者の状態に合わせて終日を過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月度1回のスタッフ会議で、一人ずつのカンファレンスを実施し、ケアの評価を見直しなが ら且つ、利用者、家族さんからの意向等を反映させ、その介護計画に沿って支援を行っている。	月1回のスタッフ会議で一人ずつカンファレンスを行い、モニタリングをして利用者・家族からの要望も聞き、今の状態を把握して介護計画を立て半年ごとに見直しを行っている。利用者の状況変化時はその都度見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今迄は介護ケース記録に記入を行い職員間での情報の共有化を図っていたが、昨年 から介護ソフトまもる君を導入、これにより微弱ながら生産性の向上に寄与している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々 に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ個々のニーズに対応した その人らし生活が送れるよう柔軟な支援を行っている。ボランティア(マッサージ)にも利用者の要望に添いながら訪問をしていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアによるレクリエーション、又、民生委員・消防職員・地域の方々との連携を図りながら安全且つ楽しい生活が送れるよう支援していますが、現在はコロナ渦中のため自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人の特色を活かし、主治医が理事長ゆえ緊急時の対応は敏速で行動されます。…安心。 また、入居前のかかりつけ医の希望があれば家族支援で受診は可能です。	入所時の説明にて全員が納得し、かかりつけ医から週1回の訪問診療(内科、皮膚科)を受けている。また以前からの眼科と持病管理は他の病院に家族同行で通院している例がある。訪問看護スーションと契約しており、週1回訪問して利用者の健康管理をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護を利用している。利用者個々の健康面を主治医と訪問看護と施設とで連携し、情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時情報提供を行い、入院先医療機関と主治医、主治医と当スタッフで連携し、情報の共有を行っている。 入院時や退院調整は、入院先医療機関の相談員を通じ調整している。必要時には退院前カンファレンスをお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近づいた場合家族の意向等を確認し、看取りに関する指針を説明するとともに同意書を作成している。	医師(法人理事長)と、訪問看護ステーションとは24時間連絡がとれ、医師は終末時は毎日でも訪問してくれるので、職員も安心である。面会制限下でも看取りケースでは条件緩和して家族と一緒に看取れるようにしている。特に研修の場はもっていないが、事例に即して、看護師や医師に知識や指導を得ている。看取り介護例は毎年ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時の訓練はできるだけ、当施設で行い、マニュアルの適正性を確認。 毎日のバイタルサイン、申し送りから予防、早期発見に努め、看護師や主治医に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき、年2回の防災・防火訓練を行っている。又、消防署と当施設間の距離が近く、立地条件は良い。 訓練時には非常災害時の対応マニュアルの検証も行っている。	昨秋に通報、避難、消火訓練を行い、利用者も14人が参加して裏庭に逃げて水消火器を使った。3月に夜間想定訓練を行う予定。川が近く増水の危険があり2階に避難することを想定している。近隣は住宅がなく、近所のガソリンスタンドと牛丼店に有事の際の協力は頼んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や生活歴の情報を共有し、その方に合わせるように努め、プライバシーを損なわないような声掛けに心掛けている。	プライバシー保護は職員入職時に誓約書を取り、離職時にも注意喚起している。職員に不適切な言動や態度が見られた時には、管理者が一方的な注意ではなく本人に考えさせるような注意の仕方を配慮している。書類は事務所で管理し夜間は施錠している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者の思いと希望にそえるよう、日々の関わりの中で本人より希望を聞き取ったり、言動や表情で思いを感じ取り、職員間で情報共有を図り、自己決定出来るようにわかりやすく説明し、選択していただくなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや尊厳を大切に、その方のペースでの生活に配慮しながら、可能な限り希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にその日の好みの服を選んでいただいたり、職員と一緒に洋服選びの相談を受けたり、又興味のない方等には事前に知り得た情報から好みの洋服を選ぶ支援を行っている。散髪は訪問移動美容を定期的にご利用し、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にはテーブル拭きから調理や配膳、食後の後片付け等その方の能力に応じて手伝っていただくことで、食事の楽しみが増すように支援している。	食事はクックチル方式だが、炊飯はフロアでしている。時々会社を変えてよりおいしく質が良いものを採用している。職員は別室で休憩時にとるが、一人は検食し記録に残している。給食会社は行事食やおやつも対応している。誕生日ケーキは職員が焼き、利用者が飾付けしてお祝いする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事と水分量の記録を行い、日により摂取量の違いがあるものの、できる限り水分量の確認と声掛けにて本人に応じた量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア習慣を生活のパターンに取り入れ、毎食後口腔ケアを行っている。又協力医療機関として提携している歯科クリニックから定期的に指導を受け口腔ケアを推進している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しつつ、定期的に(その人に合わせ)排泄の声掛けを行い自己にて排泄出来るように支援している。失禁等のときは、自尊心を傷つけないように配慮しながら支援を行っている。	現在おむつ交換は3人でそれ以外の人は布パンツ、リハビリパンツ、パットは使用していても尿意、便意があるので、室まで誘導し自室のトイレで排泄している。夜間も同様である。いつまでも、便意、尿意が保たれるような支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	摂取水分量の確認や、体操等を交えてできるだけ自力で排便できるように取り組むも、自力で困難な場合は主治医に相談し排便コントロール(排便薬)にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一昨年(2020.4)に自力で入浴困難な方も安全安心して入浴できるように風呂場の改築を行った。 (職員への身体的負荷の軽減も図れている) 1日3名の入浴により、ゆったりとご本人のペースで入浴ができ、楽しまれている。 	最新の機器(スライド式キャリー)を導入し、長年シャワー浴のみだった利用者が浴槽につかることができるようになり、利用者も家族も大変喜ばれた。医師の指導で泡で洗身しており、皮膚状態がよくなった。また、水虫予防のために夏場は足浴を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昨夜の睡眠状況を申し送り共有し現在の健康状態に合わせ、声掛けをしながら就寝を促し、眠れない時は職員が声をかけたり、フロアで過ごしていただくようにしている。夜間時の室温には十分配慮し、安眠できるように温度調整を行っている。日中はフロア内での談笑やテレビ鑑賞、レクリエーション等され、居室内でゆっくりされたい方はご本人のペースで過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で管理され、利用者毎に日付の印字と色分け(朝・昼・夕)をしており、薬の詳細内容は利用者毎にファリング。服薬時その内容に基づき声出し確認を行ない 職員の介助により確実に服薬できるように支援している。体調の変化があった場合はすぐに主治医に連絡がとれるように体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を把握し、家事を中心とした役割を設け職員がコミュニケーションを取りながら支援している。又気分転換に施設内レクリエーション、ミニ畑での収穫等を行い気分転換に一役かっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり、外出の機会は設けられない環境下で職員間で施設内レクリエーションの内容を検討し喜んでいただけよう努めている。	以前は月1回の外出行事をしていた。現在は敷地内の散歩だけだが、天気の良い日は毎日全員歩いて季節を感じるようにしている。昨年は花見(桜)とコスモス畑に行った。今年も花見は状況を見ながら実施したいと予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭管理を行わず、家族が管理している。本人の希望や必要に応じて立替金での購入とし、翌月に請求をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも利用していただけるよう職員が取り次ぐ形をとっているが、家族からはあまり希望されていない。家族からの連絡があれば出来るだけ取り次ぐようにしている。手紙のやり取りはほとんど無く年賀状を出すように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローア、居室等は不快や混乱を生じない環境に心掛けている。フローア内では利用者間の談笑や、時にはカラオケ、ゲーム、テレビ鑑賞等され、加えて施設内レクリエーション等強制でなく自由に参加できるような環境づくりに努めている。	築17年が経過したが、建物内は明るく清潔に保たれている。リビングはフロアを中心にあり、利用者は自由に自室と行ったり来たりしている。裏庭があり、テーブルセットが置かれ、広がる田んぼ風景をみて季節を感じながらお茶を飲むこともよくある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や談話、テレビを楽しめるようにテーブルやソファを設けている。フローア内には自由に活動できるようにし、利用者同士で思い思いに、又、一人になりたいときに好きなどころで過ごせる場の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談し、自宅で使用していた愛用品や馴染まれた家具等の持ち込みを呼びかけ、本人が安心して過ごせる居心地の良い部屋となるよう支援している。	14㎡と広い居室でトイレと洗面スペースが室内についている。写真やタンス、位牌の他、昔から使っていたヘルストロンを持ち込んで今も毎日使っている人もいる。入り口の表札は職員がプレゼントした手作り1人ひとり違う個性的なものだった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、廊下やトイレに手すりを設けてあり安全面に配慮している。 生活上の注意点、趣味などを知り、職員間で情報共有をはかり、サービス向上に努めている。		